



### Monthly Report

### ～住友信託の経済・市場情報～

#### Contents

#### ● 経済・市場振り返り

- ✓ 主な経済指標・ニュース
- ✓ 投資環境(国内)
- ✓ 投資環境(海外)
- ✓ 投資環境(為替)
- ✓ 主要ベンチマークの推移

#### ● 見通し

- ✓ 内外経済
- ✓ 国内資産・海外資産・為替

#### ● マクロトピックス

- ✓ 日本・米国・アジアのGDP成長率
- ✓ 今月のトピックス



SUMITOMO  
TRUST

住友信託銀行



---

## ● 経済・市場振り返り

- ✓ 主な経済指標・ニュース
  - ✓ 投資環境(国内)
  - ✓ 投資環境(海外)
  - ✓ 投資環境(為替)
  - ✓ 主要ベンチマークの推移
-

# 経済・市場振り返り ~2月の主な経済指標・ニュース(国内)~

月日	国内
2月6日	12月の景気動向指数CI速報は、一致指数が92.3と前月比2.6ポイント低下。低下は5ヶ月連続。
2月9日	12月の経常黒字は前年同月比92.1%減。1985年以降で最大の減少幅。
	1月の景気ウォッチャー調査によると、現状判断指数は前月比1.2ポイント上昇。10ヶ月ぶりに前月を上回った。
2月12日	10-12月期の機械受注統計によると、「船舶・電力を除く民需」は前期比16.7%減。1987年4月以降では最大の落ち込み。
	1月の国内企業物価指数は前年同月比0.2%下落。前月比でマイナスになるのは03年12月以来で5年1ヶ月ぶり。
2月15日	12月の企業短期経済観測調査は、業況判断指数(DI)が-24。2002年3月以来、6年9ヶ月ぶりの低水準。
2月16日	10-12月期の実質GDPは前期比年率12.7%減。実質GDPが減少するのは三四半期連続。
2月17日	1月の工作機械受注額(確報値)は、前年同月比84.1%減。2ヶ月連続で過去最低の受注額。
2月19日	政府は2月の月例経済報告にて、景気の基調判断を5ヶ月連続で下方修正。「急速な悪化が続いており、厳しい状況」。
	日銀は、政策金利である無担保コール翌日物金利の誘導目標を現行の年0.1%程度のまま据え置き決定。
2月20日	日銀は2月の金融経済月報にて、景気の総括判断を「大幅に悪化している」に据え置き。
2月25日	1月の貿易収支は9526億円の赤字。1979年以降で過去最大。
2月27日	1月の全国消費者物価指数は前年同月比横ばいに推移。上昇率は5ヶ月連続で低下。
	1月の鉱工業生産指数は前月比10.0%低下。過去最大の落ち込み幅。
	1月の有効求人倍率は0.67倍、前月比0.06ポイント低下。8ヶ月連続で悪化。
	1月の新設住宅着工件数は前年同月比18.7%減。2ヶ月連続で減少。
	1月の完全失業率は4.1%、前月比0.2ポイント低下。3ヶ月ぶりに改善。

Note

## Multi-Product & Investment Counseling

本資料は客観的情報に加え弊社の主観的判断も含まれており、投資等に係る最終的な決定は、商品に関する詳細資料を参照の上、お客様ご自身のご判断で行なっていただきますようお願い申し上げます。シミュレーションやバックテスト、各種の運用実績、運用目標やリスク・リターン等による商品分類図を含めた本資料の内容は、将来の運用成果の向上を保証するものではありません。また、シミュレーションやバックテスト等の各種データは一定の前提条件に基づき作成されたものであり、当該前提条件を十分ご確認願います。

# 経済・市場振り返り ~2月の主な経済指標・ニュース(海外)~

月日	海外
2月3日	1月のISM製造業景気指数は35.6と前月比2.7ポイント上昇。
2月4日	1月のADP全米雇用統計によると、非農業部門雇用者数は前月比52.2万人減。
2月5日	1月のISM非製造業景気指数は42.9と前月比2.8ポイント上昇。2ヶ月連続で上昇。
2月6日	12月の米製造業受注指数は前月比3.9%減。
	1月の米失業率は7.6%と前月比0.4ポイント上昇、1992年9月以来、16年4ヶ月ぶりの水準に悪化。また、1月の非農業部門雇用者数は前月比59万8000人減少、約34年ぶりの落ち込み。
2月10日	米政府が金融安定化策を発表。
2月12日	1月の米小売売上高は前月比1.0%増。08年6月以来7ヶ月ぶりのプラスに転じた。
2月17日	2月のニューヨーク連銀製造業景気指数は-34.65と前月(-22.20)から低下。過去最低となった。
2月18日	1月の住宅着工件数は年率換算で46万6000戸、前月比16.8%減。
	1月の鉱工業生産は前月比1.8%減。3ヶ月連続のマイナス。
2月20日	2月のフィラデルフィア連銀景気指数は-41.3、1990年10月以来の低水準の落ち込み。
2月19日	1月の卸売物価指数は前月比0.8%上昇。6ヶ月ぶりのプラスに転じた。
	1月の消費者物価指数は前年同月比で横ばい。
2月23日	財務省、FRBなどが共同で大手銀行に対して追加支援を行う方針を表明。
2月26日	オバマ米大統領は、予算教書を議会に提出。2009会計年度の財政赤字は1.75兆ドルとなる見通し。
	1月の米耐久財受注額は前月比5.2%減。6ヶ月連続の減少。
2月27日	2008年10-12月期の実質GDP改訂値は、前期比年率6.2%減少。1月末に発表した速報値より2.4ポイントの下方修正。

Note

## Multi-Product & Investment Counseling

本資料は客観的情報に加え弊社の主観的判断も含まれており、投資等に係る最終的な決定は、商品に関する詳細資料を参照の上、お客様ご自身のご判断で行なっていただきますようお願い申し上げます。シミュレーションやバックテスト、各種の運用実績、運用目標やリスク・リターン等による商品分類図を含めた本資料の内容は、将来の運用成果の向上を保証するものではありません。また、シミュレーションやバックテスト等の各種データは一定の前提条件に基づき作成されたものであり、当該前提条件を十分ご確認願います。

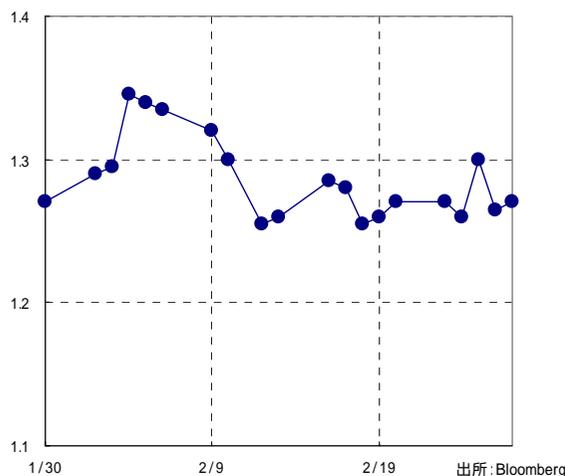
# 経済・市場振り返り ~投資環境(国内)~

市場インデックスの推移	08/03月	08/12月	09/01月	09/02月	前月比	前年度末比
NOMURA-BPI総合	312.05	318.47	316.56	317.25	+ 0.22%	+ 1.67%
新発10年国債利回り(%)	1.28	1.17	1.27	1.27	-	-
日興CBインデックス(総合)	610.37	544.60	534.71	519.75	- 2.80%	- 14.85%
東証株価指数(配当込み)	1,450.00	1,037.53	958.86	914.20	- 4.66%	- 36.95%
日経平均株価	12,525.54	8,859.56	7,994.05	7,568.42	- 5.32%	- 39.58%

## 国内債券

2月の国内長期金利はボックス圏で推移しました。上旬は、財政赤字拡大に伴う需給悪化懸念や1月ISM製造業景気指数が市場予想を上回ったことによる米国長期金利の上昇を受けて、国内長期金利も上昇しました。中旬は、米政府が発表した金融安定化策に対する失望感から米国長期金利が低下した流れを受けて、国内長期金利は低下しました。その後は、財政赤字拡大懸念による金利上昇圧力と金融不安や景気低迷の長期化懸念による金利低下圧力がかけりながらボックス圏での推移となりました。下旬も引き続き、ボックス圏の動きで推移しました。結局、国内長期金利は1.27%(前月比+0.00%)で月末を迎えました。

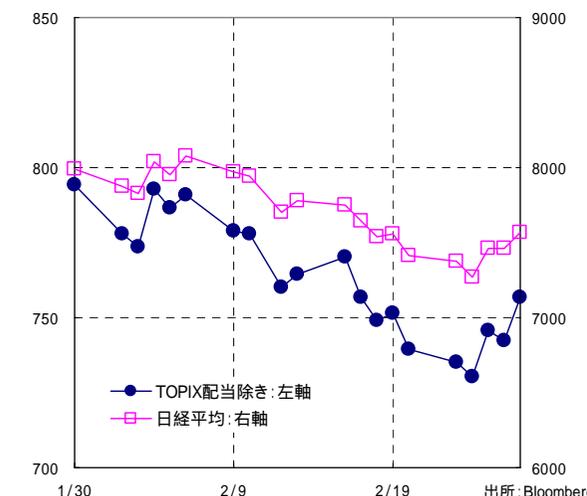
(%) 国内債券(新発10年国債利回り)



## 国内株式

2月の国内株式市場は下落しました。上旬は、内外の金融安定化策・景気刺激策に対する期待感と円安進行から反発する局面もありましたが、企業業績や世界景気に対する懸念から軟調に推移しました。中旬は、米オバマ政権が発表した金融安定化策に対する失望から下落すると、その後も、欧州における金融不安の高まりや内外の企業業績の悪化を背景に下落基調で推移しました。下旬は、商工ローン大手の経営破たんや米国の金融機関の損失拡大や国有化懸念から続落し、24日はバブル崩壊後の安値を更新しました。その後は、米FRB議長発言を受けて反発すると、政府の株価対策への期待感や円安進行を背景に上昇しました。結局、TOPIXは756.71(前月比-4.70%)、日経平均株価は7,568.42円(同-5.32%)で月末を迎えました。

(ポイント) 国内株式(TOPIX 配当除き・日経平均) (円)



## Multi-Product & Investment Counseling

本資料は客観的情報に加え弊社の主観的判断も含まれており、投資等に係る最終的な決定は、商品に関する詳細資料を参照の上、お客様ご自身のご判断で行なっていただきますようお願い申し上げます。シミュレーションやバックテスト、各種の運用実績、運用目標やリスク・リターン等による商品分類図を含めた本資料の内容は、将来の運用成果の向上を保証するものではありません。また、シミュレーションやバックテスト等の各種データは一定の前提条件に基づき作成されたものであり、当該前提条件を十分ご確認願います。

# 経済・市場振り返り ~投資環境(海外)~

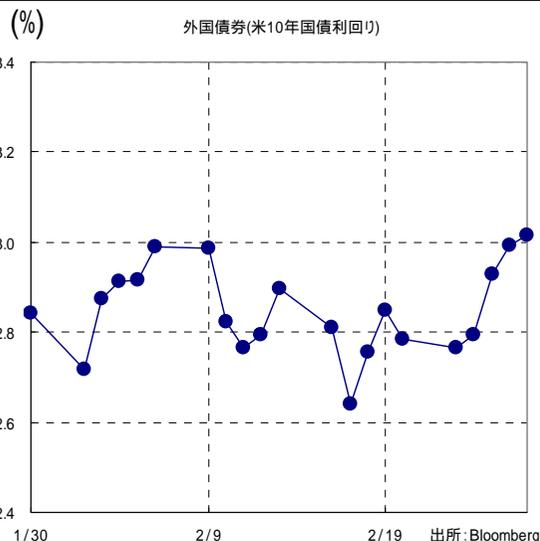
市場インデックスの推移	08/03月	08/12月	09/01月	09/02月	前月比	前年度末比
Citigroup世界国債(円ベース、日本除き)	338.08	296.73	274.72	298.04	+ 8.49%	- 11.84%
米国10年国債利回り(%)	3.42	2.23	2.84	3.02	-	-
MSCI世界株式インデックス(円ベース)	1,419.47	831.02	749.31	735.79	- 1.80%	- 48.16%
ニューヨークダウ(工業株30種)	12,262.89	8,776.39	8,000.86	7,062.93	- 11.72%	- 42.40%
ナスダック総合指数	2,279.10	1,577.03	1,476.42	1,377.84	- 6.68%	- 39.54%

## 米国債券

2月の米国長期金利はボックス圏で推移しました。

上旬は、1月ISM製造業景気指数等が市場予想を上回ったことや財政赤字拡大懸念を受けて、長期金利は上昇しました。中旬は、米政府が発表した金融安定化策が具体性に乏しいことや弱い経済指標が金利低下要因となる一方、財政赤字拡大懸念の強まりが金利上昇要因となり、長期金利はボックス圏での推移となりました。下旬は、財務省やFRB等が共同で大手銀行に対して追加支援を行う方針を表明したこと、バーナンキFRB議長が議会証言で銀行国有化の可能性を否定したこと、オバマ大統領が予算教書に必要な応じて2500億ドルの公的資金を追加できる条項を盛り込んだことによる財政赤字拡大懸念を受けて、長期金利は上昇しました。

結局、米国長期金利は3.02%(前月比+0.18%)で月末を迎えました。

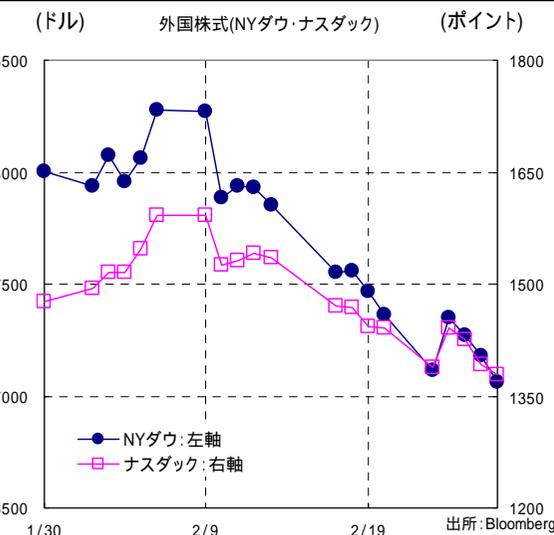


## 米国株式

2月の米国株式市場は大きく下落しました。

上旬は、経済指標が予想ほど悪くなかったことなどから底堅く推移した後、金融安定化策への期待感から上昇しましたが、発表された内容に対する失望感から反落しました。中旬は、金融機関の損失拡大や国有化懸念が嫌気された他、自動車大手の破綻懸念を背景に大幅に下落すると、景気対策や住宅市場救済策の発表はあったものの反応は限定的で、景気の先行き不透明感から軟調に推移しました。下旬は、FRB議長発言を受けて反発する局面もありましたが、10-12月期GDPの大幅下方修正や大手金融機関に対する政府管理の強化等が嫌気され下落基調で推移しました。

結局、NYダウは、7,062.93ドル(前月比-11.72%)、ナスダックは1,377.84(同-6.68%)で月末を迎えました。



## Multi-Product & Investment Counseling

本資料は客観的情報に加え弊社の主観的判断も含まれており、投資等に係る最終的な決定は、商品に関する詳細資料を参照の上、お客様ご自身のご判断で行なっていただきますようお願い申し上げます。シミュレーションやバックテスト、各種の運用実績、運用目標やリスク・リターン等による商品分類図を含めた本資料の内容は、将来の運用成果の向上を保証するものではありません。また、シミュレーションやバックテスト等の各種データは一定の前提条件に基づき作成されたものであり、当該前提条件を十分ご確認願います。

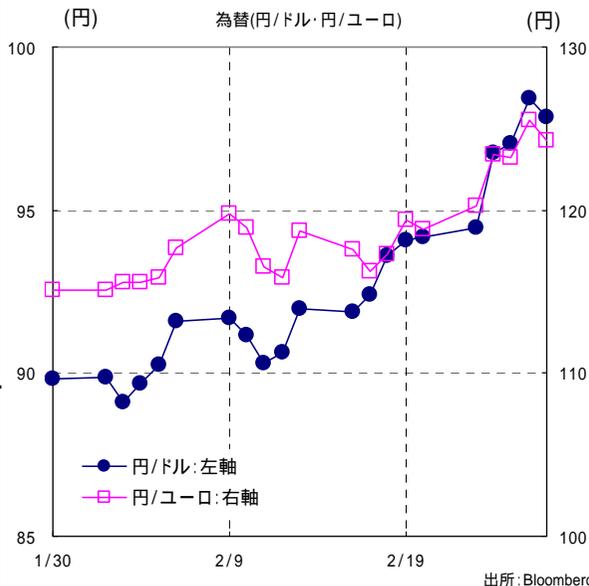
# 経済・市場振り返り ~ 投資環境(為替) ~

市場インデックスの推移	08/03月	08/12月	09/01月	09/02月	前月比	前年度末比
円/ドル相場(ロンドン16時)	99.53	90.65	89.81	97.84	+ 8.95%	- 1.70%
円/ユーロ相場(ロンドン16時)	157.72	126.00	115.09	124.27	+ 7.98%	- 21.21%

## 為替

2月の円/ドル相場は89円台半ばで始まり、一貫して円安・ドル高で推移しました。上旬は、1月米雇用統計が市場予想よりも悪化したことで、議会で審議されていた米国景気対策の早期成立期待が高められ、ドル高で推移しました。中旬から下旬にかけては、日本GDP速報値の大幅減少、日本の政局不安、1月貿易収支の赤字幅が過去最大であったこと等を受けて、ドル高で推移しました。結局、円/ドル相場は97.84円(前月比+8.03円)で月末を迎えました。

円/ユーロ相場は115円台前半で始まりました。上旬から下旬にかけて、日本景気の悪化と政局不安を受けて、ユーロ高で推移しました。結局、円/ユーロ相場は124.27円(前月比+9.18円)で月末を迎えました。

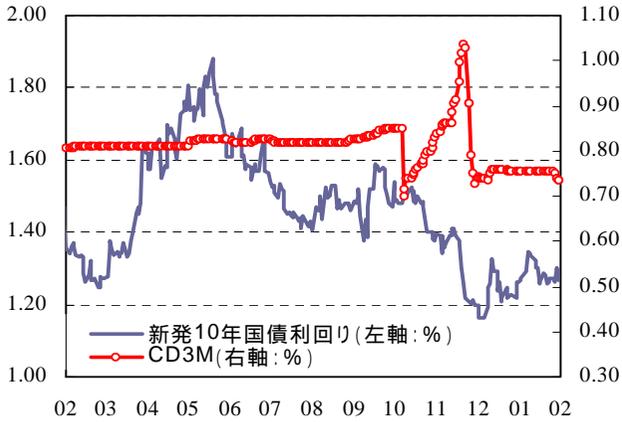


## Note

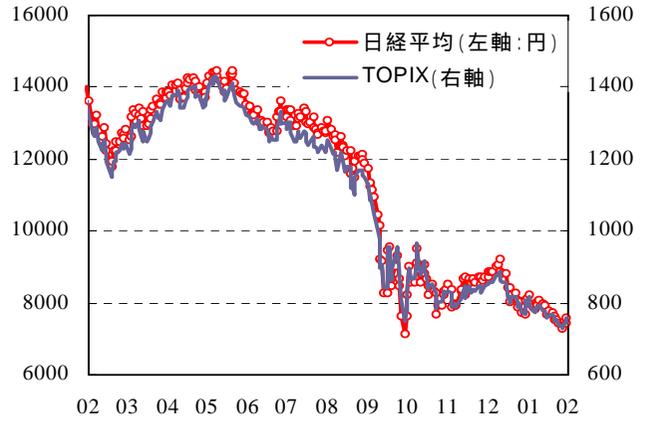
本資料は客観的情報に加え弊社の主観的判断も含まれており、投資等に係る最終的な決定は、商品に関する詳細資料を参照の上、お客様ご自身のご判断で行なっていただきますようお願い申し上げます。シミュレーションやバックテスト、各種の運用実績、運用目標やリスク・リターン等による商品分類図を含めた本資料の内容は、将来の運用成果の向上を保証するものではありません。また、シミュレーションやバックテスト等の各種データは一定の前提条件に基づき作成されたものであり、当該前提条件を十分ご確認願います。

## Multi-Product & Investment Counseling

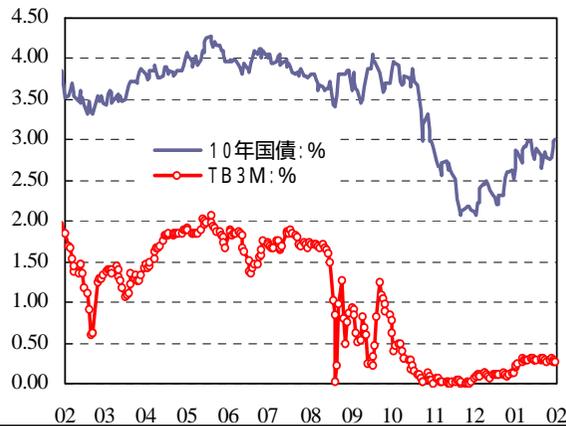
### 国内債券市場の推移



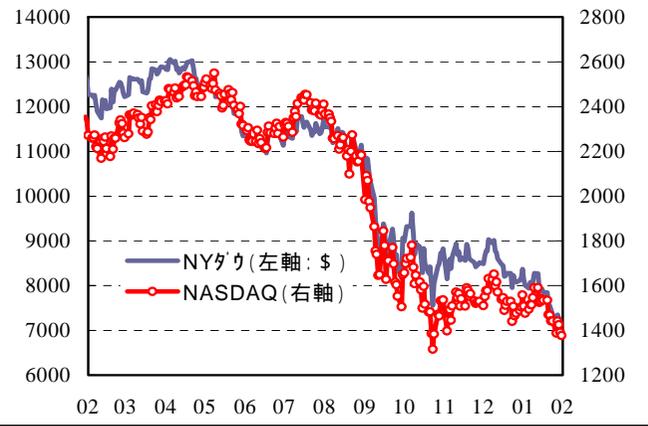
### 国内株式市場の推移



### 米国債券市場の推移



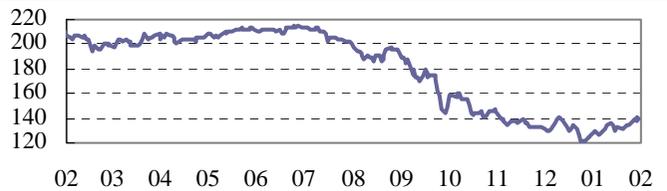
### 米国株式市場の推移



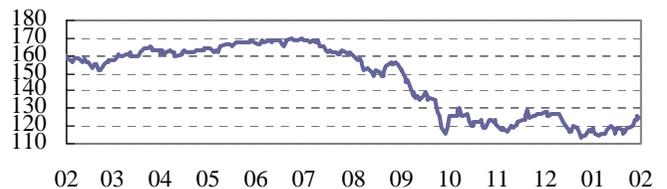
### 円/ドル相場の推移 (単位:円)



### 円/ポンド相場 (単位:円)



### 円/ユーロ相場 (単位:円)



出所: Bloomberg

### Multi-Product & Investment Counseling

本資料は客観的情報に加え弊社の主観的判断も含まれており、投資等に係る最終的な決定は、商品に関する詳細資料を参照の上、お客様ご自身のご判断で行なっていただきますようお願い申し上げます。シミュレーションやバックテスト、各種の運用実績、運用目標やリスク・リターン等による商品分類図を含めた本資料の内容は、将来の運用成果の向上を保証するものではありません。また、シミュレーションやバックテスト等の各種データは一定の前提条件に基づき作成されたものであり、当該前提条件を十分ご確認願います。



---

## ● 見通し

- ✓内外経済
  - ✓国内資産・海外資産・為替
-

## 国内景気

企業部門では、アジア向け輸出が急失速したことで輸出や生産は大幅な調整局面を迎えました。こうした環境下、マインドは業績の下方修正とともに悪化基調を辿るものと予想します。生産の落ち込みが長期化するにつれて設備の過剰感が強くなりストック調整(\*)圧力が懸念される状況となっています。また、製造業から非製造業への悪影響も懸念しています。外部環境次第の様相が強く、各国の政策効果を確認した09年末以降に若干持ち直す動きを予想します。

家計部門では、雇用の悪化や所得の伸び悩み、そして逆資産効果から消費マインドは冷え込んだ状態が続くと予想します。したがって、物価下落や景気対策等が下支えとなるものの、下振れリスクを残した動きを予想します。

(\*)ストック調整:企業の生産設備や在庫、家計の耐久消費財などの総量(ストック)を適正な水準に修正していくこと。

## 金融・財政政策

日銀は、景気悪化を背景に金融緩和政策を継続すると予想します。また、景気悪化やデフレ懸念の強まりの程度によっては、FRBに続いて量的緩和策に踏み込んでいくと予想します。

## 米国景気

企業部門では、内需の低迷に加えて外需が減速し、在庫比率が急上昇しています。そのため、生産調整圧力がかかり、企業のマインドの低下とともに設備投資が抑制されると予想します。一方、売上急減の原因は金融混乱の影響を極度に反映しているとも考えられ、金融混乱の緩和や各国政策の効果が見られる年度中盤以降に改善へ向かうと想定します。

家計部門では、企業の人員削減が加速しているため失業率の上昇傾向が続いていること、株価や不動産の価格下落による逆資産効果も顕在化していることを受けて、消費マインドには下押し圧力がかかると予想します。年度中盤に減税効果等から米国景気は若干持ち直すと想定していますが、こうした環境下で消費は総じて伸び悩むものと予想します。

## 金融・財政政策

FRBは、景気・インフレのリスクを警戒するとともに時間軸効果(\*)を鮮明にしていることから、比較的長い間、現状の目標金利(0.00~0.25%)を維持すると予想します。今後は、長期国債買入のタイミングが焦点となります。

(\*)時間軸効果:日銀が金融政策を通じて調節するのは短期金利だが、一定の条件を満たすまで金融緩和を続けると約束することで、中・長期金利を押し下げる効果のこと。

Note

## Multi-Product & Investment Counseling

本資料は客観的情報に加え弊社の主観的判断も含まれており、投資等に係る最終的な決定は、商品に関する詳細資料を参照の上、お客様ご自身のご判断で行なっていただきますようお願い申し上げます。シミュレーションやバックテスト、各種の運用実績、運用目標やリスク・リターン等による商品分類図を含めた本資料の内容は、将来の運用成果の向上を保証するものではありません。また、シミュレーションやバックテスト等の各種データは一定の前提条件に基づき作成されたものであり、当該前提条件を十分ご確認願います。

# 国内資産・海外資産・為替

## 国内債券

財政規律や季節要因などの需給悪化懸念が残るものの、景気悪化とインフレ率の低下(デフレ)そして金融緩和政策の継続から、長期金利には低下圧力がかかるものと想定します。

【2009年3月末予想値 新発10年国債 1.0-1.6%】

## 国内株式

景気悪化と業績の下方修正が続くため、不安定な動きを予想します。ただし、割安指標が残ること、各国の大型景気刺激策への期待感、金融市場の緊張緩和などから下値を大きく切り下げる可能性は低いと想定します。

【2009年3月末予想値 TOPIX 600-1000】

## 米国債券

財政政策への期待から一時的に金利が上昇すると想定していますが、一方で景気悪化やデフレ懸念、金融情勢の不透明感が残りますので金利は安定した動きを予想します。

【2009年3月末予想値 米10年国債 2.20-3.20%】

## 米国株式

景気悪化や業績の下方修正懸念で、不安定な動きを予想します。一方、金融・財政一体となった政策への期待感が一定の下支えになるものと想定します。

【2009年3月末予想値 米S&P 650-1050】

## 為替

<ドル/円>

米国の財政赤字増大や景気悪化を背景にドル安懸念を抱え続けます。一方、日米の金利差及び景況感格差が更に円優位になる余地は限定的であることから、一進一退の動きを予想します。

<ユーロ/円>

ECBの利下げや域内景況感の悪化からユーロ安圧力がかかると予想します。しかし、国内景気の悪化やドル安懸念を受けたユーロの下支えから、一方的な円高・ユーロ安には至らず、幅広いレンジでの動きを想定します。

【2009年3月末予想値 円/ドル 85-105円、円/ユーロ 105-135円】

Note

## Multi-Product & Investment Counseling

本資料は客観的情報に加え弊社の主観的判断も含まれており、投資等に係る最終的な決定は、商品に関する詳細資料を参照の上、お客様ご自身のご判断で行なっていただきますようお願い申し上げます。シミュレーションやバックテスト、各種の運用実績、運用目標やリスク・リターン等による商品分類図を含めた本資料の内容は、将来の運用成果の向上を保証するものではありません。また、シミュレーションやバックテスト等の各種データは一定の前提条件に基づき作成されたものであり、当該前提条件を十分ご確認願います。



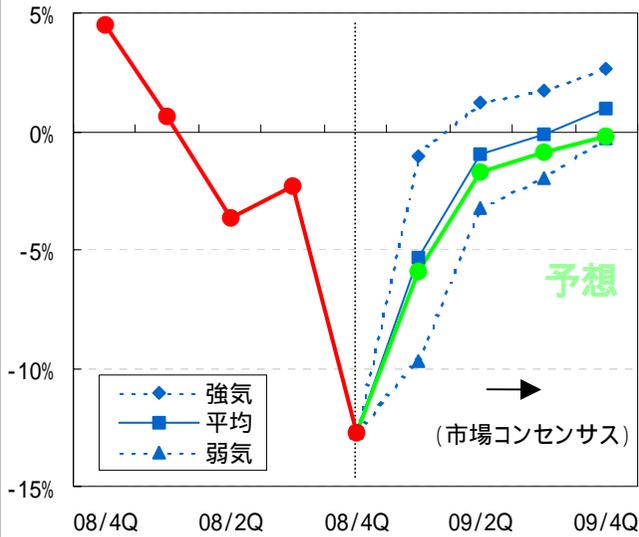
---

## ● マクロトピックス

- ✓ 日本・米国・中国のGDP成長率
  - ✓ 今月のトピックス
-

### 日本

日本:実質GDP成長率(前期比年率%)



出所:内閣府(実績値のみ)、社団法人 経済企画協会

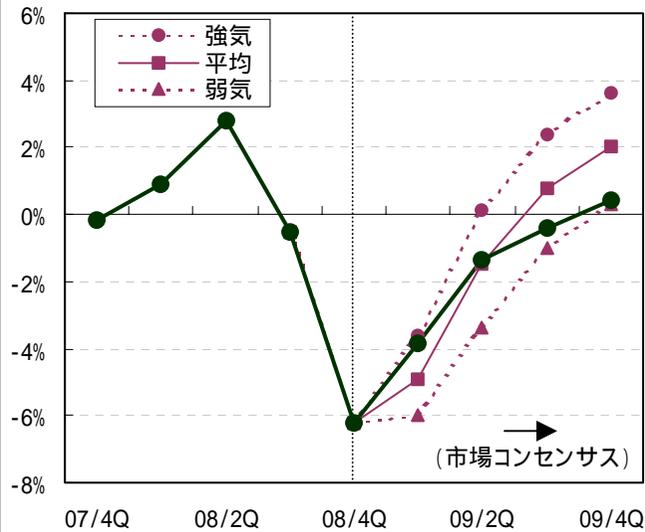
10-12月期の日本のGDP速報値は、前期比年率 12.7%と01年以来の3四半期連続のマイナス成長かつ第一次石油危機以来の減少率となりました。

寄与度は内外需ともにマイナスで、特に外需は 3.0%と、統計開始以来最大のマイナスとなりました。

\* 予想は弊社作成

### 米国

米国:実質GDP成長率(前期比年率%)



出所:米国商務省、ブルーチップ

10-12月期の米国のGDP速報値は、前期比年率 6.2%と速報値( 3.8%)から下方修正されました。

個人消費( 3.5% 4.3%)と在庫(+60億ドル 199億ドル)が主因です。

### Note

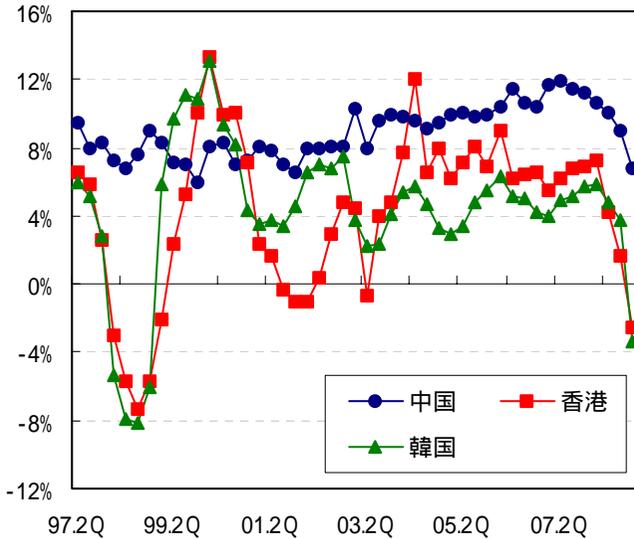
### Multi-Product & Investment Counseling

本資料は客観的情報に加え弊社の主観的判断も含まれており、投資等に係る最終的な決定は、商品に関する詳細資料を参照の上、お客様ご自身のご判断で行なっていただきますようお願い申し上げます。シミュレーションやバックテスト、各種の運用実績、運用目標やリスク・リターン等による商品分類図を含めた本資料の内容は、将来の運用成果の向上を保証するものではありません。また、シミュレーションやバックテスト等の各種データは一定の前提条件に基づき作成されたものであり、当該前提条件を十分ご確認願います。

### アジア

アジア実質GDP成長率(前年比%)

出所: 中国国統計局・香港統計局・韓国銀行



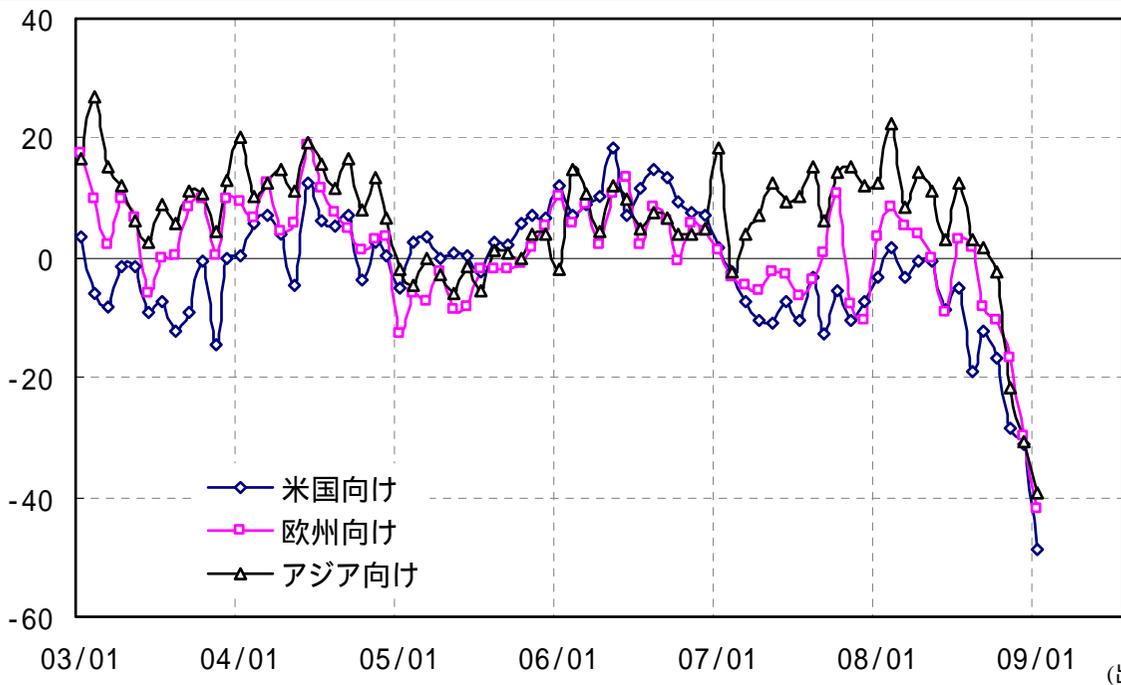
10-12月期の香港のGDP速報値は、前年同期比で 2.5%と99年以降最大のマイナスとなりました。  
08年通年のGDP成長率も+2.5%と6年ぶりの低成長となりました。  
輸出の急減速に加えて、失業率が増加するなど内需も低迷しました。

### Note

### Multi-Product & Investment Counseling

本資料は客観的情報に加え弊社の主観的判断も含まれており、投資等に係る最終的な決定は、商品に関する詳細資料を参照の上、お客様ご自身のご判断で行なっていただきますようお願い申し上げます。シミュレーションやバックテスト、各種の運用実績、運用目標やリスク・リターン等による商品分類図を含めた本資料の内容は、将来の運用成果の向上を保証するものではありません。また、シミュレーションやバックテスト等の各種データは一定の前提条件に基づき作成されたものであり、当該前提条件を十分ご確認願います。

### 日本;地域別輸出数量は米・欧 アジアへ波及



1月の貿易統計は、9526億円と4ヶ月連続の赤字となりました。輸入が原油価格の下落に伴い、前年比 31.7%と減少したものの、輸出が前年比 45.7%と、数量ベースで(前年比 41.1%)落ち込みを示したことや円高の影響でマイナス幅が拡大し、貿易赤字幅が拡大しました。

数量ベースを地域毎に見ると、米国向け 48.6%、EU向け 42.0%、アジア向け 39.3%となりました。これまで、米国・欧州向けに比べ、一定の底堅さを維持してきたアジア向けも急失速したことで、輸出・生産は大幅な調整局面を迎えています。

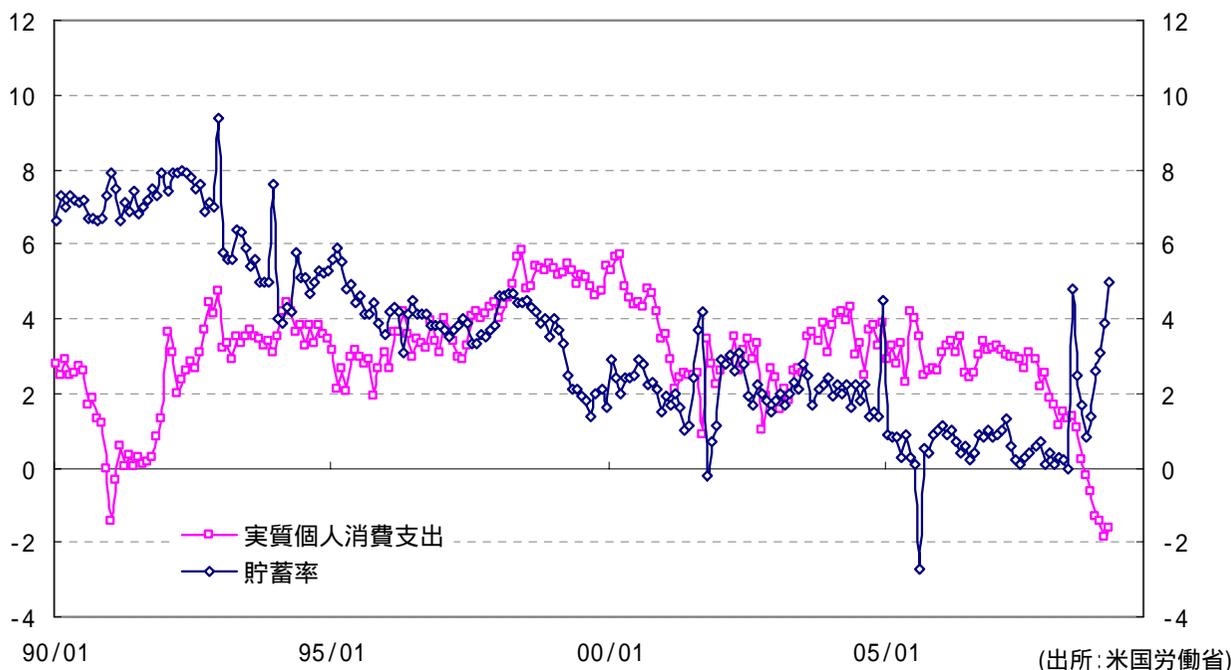
#### Note

本資料は客観的情報に加え弊社の主観的判断も含まれており、投資等に係る最終的な決定は、商品に関する詳細資料を参照の上、お客様ご自身のご判断で行なっていただきますようお願い申し上げます。シミュレーションやバックテスト、各種の運用実績、運用目標やリスク・リターン等による商品分類図を含めた本資料の内容は、将来の運用成果の向上を保証するものではありません。また、シミュレーションやバックテスト等の各種データは一定の前提条件に基づき作成されたものであり、当該前提条件を十分ご確認願います。

#### Multi-Product & Investment Counseling

本資料は客観的情報に加え弊社の主観的判断も含まれており、投資等に係る最終的な決定は、商品に関する詳細資料を参照の上、お客様ご自身のご判断で行なっていただきますようお願い申し上げます。シミュレーションやバックテスト、各種の運用実績、運用目標やリスク・リターン等による商品分類図を含めた本資料の内容は、将来の運用成果の向上を保証するものではありません。また、シミュレーションやバックテスト等の各種データは一定の前提条件に基づき作成されたものであり、当該前提条件を十分ご確認願います。

### 米国; 家計の調整圧力は続く



1月の実質個人消費支出は、1.6%と減少傾向が続き、一方で1月の貯蓄率は+5.0%と大幅な上昇がみられました。これまで可処分所得のほとんどを消費していたアメリカ世帯も、景気後退下で貯蓄に回っている様子が強まりました。

逆資産効果の顕在化もあり、貯蓄率の上昇傾向が強まりますので、当面消費は伸び悩むものと予想します。

#### Note

#### Multi-Product & Investment Counseling

本資料は客観的情報に加え弊社の主観的判断も含まれており、投資等に係る最終的な決定は、商品に関する詳細資料を参照の上、お客様ご自身のご判断で行なっていただきますようお願い申し上げます。シミュレーションやバックテスト、各種の運用実績、運用目標やリスク・リターン等による商品分類図を含めた本資料の内容は、将来の運用成果の向上を保証するものではありません。また、シミュレーションやバックテスト等の各種データは一定の前提条件に基づき作成されたものであり、当該前提条件を十分ご確認願います。



本資料は、お客様の運用戦略や投資判断等の参考となる情報の提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的として作成されたものではありません。投資等に係る最終的な決定は、商品に関する詳細資料を参照の上、お客様ご自身のご判断で行なっていただきますようお願い申し上げます。

シミュレーションやバックテスト等のデータ、運用実績やリスク・リターン等による商品分類図を含めた本資料の内容は、将来の運用成果の向上を保証するものではありません。また、データの一部は、弊社が信頼できると判断した各種情報源から入手した情報等に基づくものですが、その情報の正確性・確実性について弊社が保証するものではありません。なお、本資料は、作成日において入手可能な情報等に基づいて作成したものであり、今後の金融情勢・社会情勢等の変化により、内容が変更となる場合がございます。

本資料に関わる一切の権利は、他社資料等の引用部分を除き住友信託銀行に属し、いかなる目的であれ本資料の一部または全部の無断での使用・複製は固くお断り致します。

本資料の内容に関して疑問に思われる点、ご不明な点等がございましたら、弊社営業担当店部等にご照会下さいますようお願い申し上げます。